

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート【結果】

学校名（三重県立宇治山田商業高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		校訓「健康明朗 自律協同 誠実勤勉」のもと、 人生の基礎となる力（「志」と「専門性」）を育む学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自他を尊重するとともに、規範意識を大切にする人間性豊かな生き方を目指す生徒 ○進路実現に向けて主体的・創造的・積極的に挑戦する活力ある姿勢や態度を大切にする生徒 ○探究的な学習、地域や国際交流活動等を通して「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「地域への貢献力」等の能力を備えている生徒
	ありたい 教職員像	○目指す学校像の実現に向け、生徒の多様な力を伸長するため、絶えざる自己改革に努力を惜しまない教職員 ○生徒が減少する南勢地域において「山商ブランド」の更なる特色化に向け、情報共有と相互支援を行う教職員 ○法令・法規を遵守し、信頼ある教育活動を展開する教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 自己実現できる進路指導(就職・進学)。学習、部活動ともに充実した学校生活 〈保護者〉 安心・安全な学校。子どもの進路希望(就職・進学)実現 部活動の充実と、きめ細やかな生徒指導 〈地域〉 山商で身に付けた力を活かして地域社会に貢献する生徒と「山商ブランド」の維持	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈家庭〉 進路状況など学校情報の提供 〈中学校〉 生徒の志望に係わる学校情報の提供 〈地域社会〉 地域創生へ向けた活動や地元での就職の推進	〈家庭〉 協働できる体制の確立 〈中学校〉 体験入学や英語セミナーを通じた交流の推進 〈地域社会〉 地元事業所からの求人の継続
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業家を目指す生徒を育ててほしい。 ・ 進学において指定校のある大学を訪問したり生徒にその大学を説明したりして、指定校の枠を維持していく必要がある。 ・ 山商は進学校ではないので、進学と就職のどちらでも選べる学校であることが大切。 ・ 地域に根差した活動を推進する中で、今後も小学生に対する生徒の出前授業も積極的に行う方がよい。そして本校への興味関心を高めるためには小学生等への広報活動が重要であり、今後も積極的に新聞等を有効に活用して情報提供することが大切。 ・ 看護系に進学する生徒のためのカリキュラムに課題がある。 	

<p>(4) 現状と課題</p>	<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣が身についた真面目な生徒が多く、各種検定合格・資格取得や部活動に熱心に取り組む姿がみられる。指示されたことや与えられたことを最後までやり抜く粘り強さはあるものの、主体性や自主性、挑戦する心、創造的な思考力や企画力、地元伊勢の活性化に貢献するために必要な実践力等を一層育成する必要がある。 ○ 文部科学省事業において、コンソーシアムや海外交流アドバイザー・地域協働学習実施支援員等と連携を図りながら、異なる文化や伝統に立脚する人々等、多様な主体を互いに繋ぐ能力や態度を備えるとともに、持続可能な社会づくりを意識した地域の活性化やグローバル社会に主体的に参画し、新たなビジネスを創出できる人材を育成する必要がある。
	<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」を明確にした教育活動の実践だけでなく、「何が身に付いたか」について、平成 25 年度から取り組んだ多様な学習成果の評価手法の研究成果を活かしながら、各教科の学習到達目標（CAN-DO リスト）の作成や評価手法の充実・改善を図り、指導と評価の一体化に取り組む必要がある。また、各教科だけでなく、地域と協働した取組のプログラムについても評価手法について検討する必要がある。 ○ 専門高校としての「専門性」の深化と、生徒の「多様性」を保障する努力を、学校組織全体として徹底する必要があるが、個々の教員の力量に任せている場合もある。学校全体の取組を検証し、カリキュラムマネジメントをとおして、教職員の過重労働削減に取り組む必要がある。 ○ 南勢地区の中学校卒業生徒数が減少する中、各学科の特色化を図るとともに、地域や中学生に対し積極的な広報活動等を推進する必要がある。

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の自主性、主体性、創造性を育み、積極的に自己を生かしていくため、部活動振興を含め、文武両道を推進し、人間性豊かで活力に満ちた学校生活の確立に努める。 ○ 地域に開かれた学校づくりをとおし、キャリア教育の更なる充実を図るとともに、就職及び進学の見学実現に向け支援し、地域社会の発展に貢献する人材を輩出する商業高校を目指す。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絶えざる自己変革（「学校力」・「教師力」・「生徒の人間力」の強化）を行うため、全教職員が授業公開を行うとともに、多様な学習成果の評価手法について組織的に研究を深め、授業改善を進める。 ○ 効果的な教育活動を実現するため、総勤務時間の削減に努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>教育課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業時間の確保と授業の質的向上に努め、適正な行事の時間を確保することで生徒・保護者の満足度を高める。 【活動指標】 ・ 各分掌、各学年等の年間計画を総合的に検証する。 ・ 学習指導要領改訂を踏まえた教育課程を検討する。 		

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート等による成果と課題の検証 年2回 GROW 結果と生徒アンケートとのクロス分析 年2回 (「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「地域への貢献力」等) 	<p>8月：高校魅力化評価システム 7月、12月：AiGROW 2月：満足度アンケート</p>	
学習指導	<p>○ 授業内容の充実を図り、生徒の学習意欲や学力の向上、進路実現に努める。</p> <p>○ 各教科の学習到達目標の作成や評価手法の充実・改善を図り、指導と評価の一体化に取り組む。</p> <p>○ 生徒の学習・生活状況の実態を把握するための調査を実施し、生徒理解に生かす。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業理解度を把握するため、各教科の「つきたい力」に沿った調査方法を検討し調査を実施 オンライン教育を推進し、web 学習教材の充実を図る パフォーマンス課題とパフォーマンス評価の改善・充実 年間授業計画（シラバス）にパフォーマンス評価を記載 日本商工会議所簿記検定2級、基本情報処理試験に挑戦 英語セミナーを実施し、英語運用能力の向上を図り、英語の上級検定取得に挑戦 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 考查発表期間中の学習時間 20 時間以上／週 オンラインコンテンツの充実 全教科ラインナップ 「日商簿記検定2級」合格 100 名以上 「情報処理国家資格」合格 25 名以上 「実用英検2級」（「実用英検準1級」、「TOEIC730 点以上」含む）、「GTEC840 点以上」取得 30 名以上 	<p>19.2 時間／週 全教科 36 人 23 人 39 名 2 級 37 名 準 1 級 2 名 TOEIC730 点以上 0 名</p>	
キャリア教育	<p>○ 3年間の系統的なキャリア教育（1学年・高校生活を考える、2学年・高校生活の充実に向けて、3学年・高校生活の完成に向けて）を通じて、職業観・勤労観、主体性、挑戦する心、コミュニケーション力等を育成する。</p> <p>○ 個々の生徒の適性に応じた進路保障に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に「進路だより」を発行し WEB ページで公開する。 年間8回以上の進路講話（1年生2回、2年生3回、3年生3回）を体系的に実施する。 全教職員による延べ200本以上の全職員による小論文指導を実施する。（図書館とも連携） 1年生に企業見学を実施（10月） 2年生にジョブシャドウイングを実施（10月） <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学または難関私立大学合格のべ数 20 名以上 民間企業等就職内定率 100% 	<p>17 名 100% (61 名／61 名)</p>	

生徒指導	<p>○ 基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、集団生活をととして他者を尊重し協調する心や集団の規律を遵守する態度を育成する。</p> <p>○ 文武両道を推進し、部活動の振興を図る。</p> <p>○ 交通安全の徹底を図る。</p> <p>○ 生徒の自主性を高めるため生徒会活動や体育祭・山商祭などの学校行事等を充実する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5分前行動を促し、授業開始前の着席指導を徹底する。 ・ 全教職員による「身だしなみ指導」「挨拶運動」を充実する。 ・ 交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守に努めるよう指導する。 ・ 生徒会活動の活性化を図り学校行事の創意工夫と実態に即した改善を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「頭髪指導」当日合格率 90%以上 87% ・ 自転車事故件数 年間 0件 7件 ・ 生徒会による「挨拶運動」を実施 年間 20回以上 18件 ・ 充実・改善を図った生徒会活動 年間 2回 4回 		
人権教育	<p>○ 「三重県人権教育基本方針」に基づいた人権カリキュラムを充実し、推進体制の確立と総合的・系統的に取り組むを推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間を通じた体系的な学習となるよう計画立案する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育カリキュラムに基づいた授業を実施 全学年で各学期1回以上 	全学年で 各学期1回以上実施	
読書指導	<p>○ 教科の学習及び特別活動に役立つ資料の充実に努め、利用を促すとともに、自由な読書の機会を保障する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・保護者向け及び教職員向けの図書館だよりを発行する。 ・ 図書館主催のイベントを充実する。 ・ ビブリオバトルに参加し、生徒の表現活動を推進する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の貸出冊数 全体で15,000冊以上 7,543冊 ・ 教科の授業や特別活動と連携した図書館利用回数 年100回以上 31回 	7,543冊 31回	
安全・安心な学校づくり	<p>○ 自他を尊重し、命を大切にする態度を育成するため、あらゆる機会を通じて生命尊重の教育を推進する。</p> <p>○ 教育相談員との連携を図り、相談体制の更なる充実を目指す。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境整備の充実を図るため、ゴミの減量・分別と清掃指導の徹底に努める。 ○ 全教職員の熱中症への対応を高める。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の教育活動全体を通じて「命を大切にす教育」を検証し、取組内容を充実する。 ・ 教育相談体制を充実させることで活用しやすい体制をつくとともに、教員の指導力の向上を図る。 ・ 学校環境デーなど生徒と教員の取り組みを活発にし、環境美化、節電、ゴミ減量・削減に向けて努力する。 ・ 機械警備を適切に運用するため、戸締り、窓閉め、消灯などを徹底する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「命を大切にす教育」に係る講演会の実施 年 1 回 1 回 ・ 保健講話（熱中症講演会）の実施 年 1 回 1 回 ・ 高校生活セルフチェック「不安や辛さあるいは怒りなどを感じる」生徒の割合 昨年同時期より減 不安や辛さあるいは怒りなどを感じた割合ほぼ増減なし（2.52） ・ 校舎施錠不備（委託業者施錠）回数 年間 3 回以内 4 回 		
--	---	--	--

改善課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育の改善計画に基づき取り組むとともに継続的に生徒の実態を把握し、その実態に合わせ計画を修正しながら進めていく必要がある。 ・ キャリアパスポート実施1年目のため、引き続き様式の修正も含め随時検討し、生徒にとって単なる成長の記録にならないように模索していく必要がある。 ・ 次年度もコロナ禍による様々な制約が想定されるが、教育活動を止めるのではなく、生徒にとって何が大事なのかを踏まえたうえでどうすればできるのか様々な方法を模索・検討し教育活動を続けていく必要がある。
--

（2）学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員間の情報共有化と危機管理意識の高揚及び防災教育の推進に努める。 ○ 法令を遵守し、過重労働の削減に努める。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災危機の観点から「学校メール連絡網」への加入者数の増加を図る。 ・ 「校内ネットワーク」の積極的な活用により、教職員間の「情報の共有」に努める。 ・ 定時退校日、部活動休養日等を設定して時間外労働を削減する。 ・ 議題説明時間の短縮により、会議時間の効率化を図る。 		

	【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> 「学校メール連絡網」加入者割合 100% 1人当たりの月平均時間外労働 30時間以下 年360時間を超える時間外労働者数 0人 月45時間を超える時間外労働者延べ人数 0人 1人当たりの年間休暇取得日数 年1日増加 定時退校日(月2回)できた職員の割合 90%以上 部活動休養日(週1回)できた部活の割合 95%以上 放課後60分以内に終了した会議の割合 85%以上 	97% (生徒) 13.8時間 0人 0人 年0.1日増加 93.9% 100% 80.4% (37回/46回)	
情報提供	○ 開かれた学校づくりを実現するため広報活動の充実を図る。 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> 公開授業、公開講座を開催する。 報道関係者への情報提供、地域・中学校には学校Webページなどを活用した情報発信に努め、受検生徒の増加を図る。 【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> 公開授業 年2回以上 学校Webページの充実・更新 年120回以上 新聞記事等への掲載回数 年16回以上 	2回(全1、商1) 183回(3/3時点) 41回	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> 国際科の魅力発信のため、広報活動を見直し、工夫、改善する必要がある。 会議時間の短縮を図るため、協議事項の精選や提案する時期を見直す必要がある。また、連絡事項においても、ディスクネッツ等を活用し会議時間の短縮を図る必要がある。 クラス減に伴う教員数減ため、部活動の統合や休止、顧問数の検討を各部活動の活動量を踏まえ調整する必要がある。 			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において制約のあるなか、様々な対策及び工夫を教職員が行い教育活動を止めることなく実施してきたことで、生徒は例年と同様の学びを得ることができた。 コロナ対策で得られたオンライン研修などの取組を、今後もさらに発展させて実施することは、今後の社会でリーダーとして活躍していく生徒には必要である。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> 文武両道の校是のもと、コロナ禍における教育活動を定着させるためにICTによる教育活動を積極的に推進し、生徒が充実した高校生活が送れるように取り組む。 文部科学省事業「グローバル型」最終年度として、SDGsの視点を持った地域リーダー育成に向けて地域連携した教育活動や国際交流活動に取り組み、次年度以降も持続可能な教育活動となるよう計画的に実施する。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> 少子化における学級数減の中での3学科の魅力化に向けて再確認し、開かれた学校づくりを実現するため広報活動の充実を図る。 地域に根差した「信頼される学校」として、引き続き、教職員が法令遵守のもとで生徒・保護者等関係者の声に耳を傾けながら、風通しの良い学校に向けて取り組む。